

平成 17 年 4 月 17 日

ごあいさつ

日本免疫病治療研究会 会長 西原 克成

この度、第六回の日本免疫病治療研究会を開催致す運びとなりました。平成 13 年の春に結成されて以来 4 年経過致しましたが、この 4 年間で、免疫病の本態が徐々に明らかとなり、治療方法も確立して来ました。本研究会の母体となりました AART アソシエーション(アパタイト療法・人工歯根療法研究会)は昭和 63 年に発足して以来すでに 17 年経過し、人工骨髄造血チェンバーと人工歯根を開発することが出来ました。これは移植された人や動物(レシピエント)の未分化間葉細胞の遺伝子の引き金を生体力学というエネルギー刺激によって引くことで造血細胞と造骨細胞を誘導するというハイブリッドタイプの人工器官開発の画期的手法によるものです。これにより脊椎動物の進化の謎の解明の端緒が得られ、免疫学の謎も明らかにされました。進化も免疫病もともに質量のある物質と質量のないエネルギーの複合作用によって起こっていたのです。ひるがえって今日の世界を顧みますと、「質量保存の法則」に則ってライフサイエンスが成り立っていることに気づきます。ストレスで代表される生命エネルギーや重力・湿度・寒冷・熱射・音波・光波等電磁波動・力学エネルギー等の生命体に及ぼす作用に関する認識が今日の医学や生命科学においては漠然としていて、極めてあいまいでした。大進化が重力作用への脊椎動物の対応を中心として、質量のある物質の酸素濃度の変化とともに質量のないエネルギーで起こっていることが明らかとなりました。いよいよ生命エネルギーの心や精神の謎の解明に向かう時期が到来したのです。心の宿る器官を明らかにするのは、アレクシー・カレルが 100 年前にその原理を開発した臓器移植が有効です。こうしていよいよ心と精神が最も高次に進化している人間を研究する段階に来ました。本総会を期に、17 年間続けて来ました AART アソシエーションを健康人間研究会に改めることと致しました。また平成 13 年に始めました健康と美容の医学の西原研究所も「西原人間研究所」と改めることと致しました。何卒宜しく御支援の程をお願い申し上げます。